

## Y8-11

## 研修医が赤十字病院を選択する理由

日本赤十字社 事業局<sup>1)</sup>、  
日本赤十字社事業局医療事業部医療安全課<sup>2)</sup>  
○安藤 恒三郎<sup>1)</sup>、最所 浩美<sup>2)</sup>、山下 信一郎<sup>2)</sup>、  
堀口 頼章<sup>2)</sup>

【目的】研修医が臨床研修の場として赤十字病院を選択した理由を明らかにし、今後の臨床研修事業の一資料とする。

【方法】1. 対象 赤十字病院で臨床研修を行っている初期研修医（2年次生）364名及び後期研修医（5年次生）177名 2. 方法 自記式質問紙調査法 各病院で一括配布及び回収。3. 質問項目 個人の背景、赤十字病院を選択した理由、医師臨床研修制度についての考え

【結果】回収率：初期研修医40.7%、後期研修医24.9%。初期研修医では、初期研修に病院を選んだ理由は、「多くの症例を経験できる」84名（10.2%）、後期研修に病院を選んだ理由は、「専門医取得につながる」72名（14.9%）が最も多かった。また、後期研修医では、初期研修に病院を選んだ理由は「様々な技術や知識を習得できる」22名（10.4%）、後期研修に病院を選んだ理由は「多くの症例を経験できる」29名（17.2%）が多かった。しかし、いずれも「指導体制の充実」が上位であり、指導体制の充実が重要であることがわかった。また、「地域保健・医療において医師が不足する病院に行ってみたいか」という質問では、「行ってみたい」と初期研修医の84.5%、後期研修医では77.3%が回答した。

【まとめ】臨床研修の場を選択する理由は様々であるが、研修医が学習の主体となることができる教育環境の整備が重要であり、赤十字病院全体で指導医養成講習会等を受講した医師を増員する必要がある。また、地域医療については全国に広がるグループメリットを活用し、充実した研修環境を提供することが、研修医に選ばれる赤十字らしい研修プログラムであるのではないかと考える。

## Y8-12

## 2病院整形外科間での医師人事交流経験

名古屋第二赤十字病院 整形外科<sup>1)</sup>、  
武蔵野赤十字病院 整形外科<sup>2)</sup>、  
国保東栄病院<sup>3)</sup>  
○浜田 俊介<sup>1)</sup>、佐藤 公治<sup>1)</sup>、  
安藤 智洋<sup>1)</sup>、北村 信二<sup>1)</sup>、山崎 隆志<sup>2)</sup>、  
佐藤 茂<sup>2)</sup>、村上 元昭<sup>2,3)</sup>、竹上 靖彦<sup>3)</sup>

【初めに】平成21年3月に武蔵野赤十字病院整形外科と当院整形外科との間で行った医師人事交流について報告する。

【対象】今回で2回目となる人事交流では、名古屋第二赤十字病院からは卒後5年目、武蔵野赤十字病院からは卒後13年目の医師がお互いの病院へ派遣され約2週間の病院業務を行った。

【方法】武蔵野赤十字病院整形外科のスタッフとして、外来診療・手術・病棟回診業務等に実際に参加した。その中で当院との治療方針・各システム・スタッフの考え方の良い面、悪い面を含め相違点を吸収しその結果を当院で活かせるよう、また自分自身の研磨となるよう努めた。

【内容・結果】具体的に参考になった事として手術中の器具の取り扱い・創洗浄の方法やスタッフの定期的鼻腔培養検査など積極的な感染対策・スタッフの意識の高さや、効率的な業務配置などが挙げられた。診断・治療についても交流先病院のスタッフの意見を聞き実際にその治療（手術）に参加することで従来とは異なった知見を吸収できた。また同世代医師と共に仕事を行う中でコミュニケーションを図ることで、自分自身に対する再認識ができた。

【考察】今回は2回目であったが、実際には別の医師が別の視野からみることで新たな知見を吸収できると考えられた。また他病院での実務経験の少ない若手医師にとって、異なった環境での業務を経験できることは良い刺激となり、普段の自分自身の診療に対する啓発を行う上で有用であると考えられた。また今回のような遠隔地間での人事交流を行うことは地域を越えた病院間の連携を形成できると期待された。